

## 営業再開の奥津温泉旅館



# 河鹿園 老舗復活目指す

文人墨客に愛されながら2012年に旅館した奥津温泉の旅館「河鹿園」(鏡野町奥津)が、地元業者により「池田屋河鹿園」として営業を再開し、奥津溪の紅葉で温泉街が最もにぎわう秋の観光シーズンを初めて迎えた。客室数は8室と旅館前の3割程度だが、順次改装を進め、「老舗の復活」を目指す。(杉本明信)

河鹿園は1929(昭和4)年、温泉街中心部の古井川沿岸部を運営するイコール(同じに開業。創業者の故光永大町奥津、池田誠社長)が2014年秋、営業再開を望む声だったことから、版画家の棟方志功や歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻、作家の川端康成らが訪れた。岡山ゆかりの直木寛設計指導した茶室、妙知庵が作家・藤原審爾の出世作「秋津温泉」で主人公が泊まる宿のモデルとされる。

▲営業開始後、初めて秋の観光シーズンを迎えた「池田屋河鹿園」

奥津温泉でホテル「米屋倶楽部」を運営するイコール(同じに開業。創業者の故光永大町奥津、池田誠社長)が2014年秋、営業再開を望む声だったことから、版画家の棟方志功や歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻、作家の川端康成らが訪れた。岡山ゆかりの直木寛設計指導した茶室、妙知庵が作家・藤原審爾の出世作「秋津温泉」で主人公が泊まる宿のモデルとされる。

本館(木造一部3階)、棟方が設計指導した茶室、妙知庵がある新館(木造3階)、地下に浴室のある別館(同2階)、フロントのある南館(同3階)、当時のままの源泉を含む土地(約2570平方メートル)を競売で購入した。

## 客室増へ順次改装

4館で25室ほどあった客室のうち、当面は1、2階部分だけで再開することとし、16年秋から改修作業をスタート。往時の姿をとどめる旅館の外観は維持しつつ、老朽化していた温泉設備の配管を直したり、2部屋を合わせて1室に改装したりして今年4月にオープンにこぎ着けた。今後も客室を増やす予定。

河鹿園といえば、宿泊した棟方や与謝野だけでなく、多くの芸術家の作品を所蔵していることで知られたが、競売での購入時にゆかりの美術品はほとんど残っていなかった。それでも池田社長は「光永さんが目指していた芸術作品を通じて人と人がつながるような旅館にして温泉街の魅力を高めたい」と話す。

池田屋河鹿園の再開で、温泉街の宿泊施設は6軒になった。同町観光協会は「宿泊施設が増えるのは喜ばしい。温泉街の活性化につながってほしい」としている。